

## ホルスタイン種にみられた牛白血病（子牛型）

淡路基幹家畜診療所

○石川貴將 小西健治 宇崎敬与 宮本孝明

久野尚之 西崎悟 曾賀久征 大平正信

牛白血病は成牛型（地方病型）と散発型に大別されており後者はさらに子牛型，胸腺型，皮膚型に分類されている。地方病型はウイルスの関与が知られているが，散発型は原因不明であり発生は少ない。今回ホルスタイン種子牛において左右対称性の体表リンパ節の腫脹を主症状とする症例に遭遇した。

### 材料および方法

発症牛：2014年10月17日生まれのホルスタイン種雌子牛

臨床経過：2015年1月7日に下痢が続くとの稟告で往診。体温 38.8℃，心拍数 138 回/分，活力あり，食欲正常，泥状下痢，肺音粗励，削瘦，左右対称性の耳下腺，浅頸および腸骨下リンパ節の腫脹を認めた。1月9日に牛白血病を疑い，家畜保健衛生所にて病性鑑定を実施した。

### 結果

ウイルス検査：牛白血病ウイルス陽性（r-PCR）

血液検査所見：WBC302800 個/ $\mu$ L，異型リンパ球 98%，Ht 値 20.7%，AST133U/L，CPK1127U/L，LDH6480U/L，BUN34.4mg/dL

剖検所見：大多数の体表，深部リンパ節が左右対称性に腫脹していた。肝臓，脾臓は著しく腫脹していた。胸腺も頸部，胸部ともに腫脹していた。骨髄は赤色髄の中に黄変部位が認められた。また，腎皮質には白色結節が散見された。

組織所見：肝臓，脾臓，腎皮質間質，肺，第四胃，空回腸，結腸，リンパ節，胸腺および骨髄においてリンパ球様細胞の腫瘍性増殖がみられた。免疫染色では CD3 は陽性，CD5，CD79 $\alpha$  cy は陰性であった。

### 考察

牛白血病（子牛型）の初期症状はリンパ節の腫脹であり，左右対称性に全身の体表リンパ節が腫脹し，腫脹したリンパ節の部位により下痢などの消化器症状や肺音粗励などの呼吸器症状を呈すようになる。今回の症例は牛白血病ウイルス陽性を示したが，免疫染色の結果，成牛型牛白血病で陽性を示す CD5，CD79 $\alpha$  cy がともに陰性を示し，CD3 のみ陽性を示したことから T 細胞に由来する牛白血病（子牛型）と診断した。